

令和3年度

主要施策の成果に関する説明書

令和4年度滋賀県議会定例会  
令和4年9月定例会議提出

[文化スポーツ部門]

# 滋 賀 県 の 施 策 の 分 野

- I 人 自分らしい未来を描ける生き方
- II 経 済 未来を拓く 新たな価値を生み出す産業
- III 社 会 未来を支える 多様な社会基盤
- IV 環 境 未来につなげる 豊かな自然の恵み

目 次

	頁
I 人	73
II 経 済	該当なし
III 社 会	該当なし
IV 環 境	該当なし

(注) 主要施策の成果に関する説明書の記載について

「成果の説明」の欄中

【感】とあるのは「新型コロナウイルス感染症」対応関連事業を示す。

Ⅰ 人

自分らしい未来を描ける生き方

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>1 子どもの文化芸術体験の充実</p> <p>予 算 額      35,622,000 円</p> <p>決 算 額      35,620,656 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 滋賀次世代文化芸術センターの運営費補助 <span style="float: right;">9,800,000円</span></p> <p>ア 文化芸術連携事業 文化施設、芸術家と学校を結び、子どもたちが文化芸術を体験する授業を実施。 実施件数 88件    学校数 26校    児童・生徒数 4,679人</p> <p>イ ボランティア、スタッフの育成・研修 大学と連携したボランティア派遣や芸術と教育との連携を深めるための研修会を実施。 文化ボランティア数 18人 スタッフ・教育関係者研修会 日程：令和3年8月17日    場所：MIHO MUSEUM    参加者数：26人</p> <p>(2) びわ湖ホール舞台芸術体験事業(「ホールの子」事業) <span style="float: right;">23,782,656円</span> 県内の子どもたちが優れた舞台芸術に触れる機会を提供するため、びわ湖ホールに県内小学生等を招き、オーケストラとびわ湖ホール声楽アンサンブルによる音楽公演を平成23年度から実施している。 令和3年度は6日間で12公演を実施し、うち6公演を(公財)びわ湖芸術文化財団へ委託して実施した(残り6公演は指定管理事業)。また、県内各地からの参加を促すため、交通費の補助を行った。 日 程：令和3年5月25日～28日、31日、6月1日    各10:30～、14:00～(全12回公演) 場 所：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール 参加数：県内小学校等103校    児童・生徒数 7,153人 補助数：県内小学校等 95校 補助率：公共交通機関利用の場合は全額補助。 借上バス等利用の場合は1台あたり実績額の8割を補助。ただし、その額が5万円以下となる場合は、5万円を上限に実績額の全額を補助。</p> <p>(3) 美ココロ・パートナーシップ事業 <span style="float: right;">2,038,000円</span> 多様な環境下にある子どもたち(別室登校・不登校児童生徒等)を対象に、若手芸術家を本事業の講師である「美ココロ・パートナー」として派遣し、様々な芸術に触れ、豊かな心を育む文化芸術体験プログラムを提供した。 学校数 27校    児童・生徒数 延べ245人 派遣した美ココロ・パートナー 陶芸家5人、打楽器奏者4人、茶道家1人</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>2 施策成果</p> <p>(1) 滋賀次世代文化芸術センターの運営費補助 滋賀次世代文化芸術センターが行う連携授業により、多くの子どもたちが文化芸術に触れ、創造する機会を提供することができた。また、事前学習教材の開発やオンライン授業の活用など、講師、スタッフ、ボランティアの細やかな対応により、子どもたちに文化芸術の楽しさや感動を伝えることができた。</p> <p>(2) びわ湖ホール舞台芸術体験事業(「ホールの子」事業) 新型コロナウイルス感染症対策に万全を期して、県内の小学生等に舞台芸術を直接体験できる機会を創出することができた。また、交通費の補助を行うことで、遠方の学校の負担を軽減した。</p> <p>(3) 美ココロ・パートナーシップ事業 多様な環境下にある子どもたちが、文化芸術に触れることで、自己を育て感動や安らぎを感じることができる機会を提供することができた。学校側の要望に応じて感染対策や授業内容を工夫したことにより、学校の信頼を得て、充実したプログラムを実施できた。</p> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 滋賀次世代文化芸術センターの運営費補助 文化芸術を体験する連携授業に参加する学校は県南部に多いことから、それ以外の地域から参加する学校を増やす必要がある。</p> <p>(2) びわ湖ホール舞台芸術体験事業(「ホールの子」事業) 事業に参加した学校からは、直接舞台芸術に触れる貴重な経験として高い評価を得ており、参加校を増やす方策について引き続き検討していく必要がある。</p> <p>(3) 美ココロ・パートナーシップ事業 様々な事情により、学校が実施するプログラムに参加しにくい状況にある子どもたちを対象としている事業であり、事業実施までの調整等に手間がかかることから、より多くの学校で事業を実施することができるよう、「美ココロ・パートナー」として取り組む若手芸術家を、派遣を通して育成する必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 滋賀次世代文化芸術センターの運営費補助 ①令和4年度における対応 教員や学校関係者に向けた研修等を通じて、センターの活動内容について検証し、発信するとともに、県南部以外の地域にも事業の周知や参加の呼びかけを行う。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>2 文化振興施策の総合的な推進</p> <p>予 算 額        113,154,000 円</p> <p>決 算 額        104,018,785 円</p>	<p>②次年度以降の対応 引き続き、県内美術館・博物館・劇場・音楽堂等・民間団体等との連携を深め、多くの子どもたちが文化芸術に触れ、創造する機会を提供するとともに、県内全域に事業の周知を図る。</p> <p>(2) びわ湖ホール舞台芸術体験事業(「ホールの子」事業)</p> <p>①令和4年度における対応 借上バス等を利用する場合も実費相当額を補助できるよう、交通費補助を拡充した。</p> <p>②次年度以降の対応 各学校等への参加意向調査の結果を踏まえ、個別の状況に応じて提案をするなど、参加を促していく。</p> <p>(3) 美ココロ・パートナーシップ事業</p> <p>①令和4年度における対応 民間団体等と連携し、若手芸術家を「美ココロ・パートナー」として派遣することを通して育成する。</p> <p>②次年度以降の対応 引き続き研修等の充実を図り、「美ココロ・パートナー」として取り組む若手芸術家を、派遣することを通して育成する。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p> <p>1 事業実績</p> <p>(1) 文化情報誌等の発行・配布 <span style="float: right;">5,971,000円</span></p> <p>「湖国文化情報『れいかる』」の発行 <span style="float: right;">年間5回 30,000部/回</span>  総合文化誌「湖国と文化」の図書館、教育機関等への配布 <span style="float: right;">年間4回 430冊/回</span></p> <p>(2) 【感】新型コロナウイルス感染症に係る文化芸術活動への支援</p> <p>ア 未来へつなぐしが文化活動応援事業 <span style="float: right;">41,290,871円</span>  新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う活動の自粛等により、公演等の活動機会を失った文化活動関係者の活動継続を支援するため、感染症対策を実施しながら再開する文化活動に対し、支援を行った。  補助金交付件数 226件      交付額 35,266,000円</p> <p>イ 文化芸術公演支援事業 <span style="float: right;">25,168,914円</span>  コロナ禍における文化芸術公演を支援するため、感染防止対策を実施し、県内文化施設で文化芸術公演等を行う利用者に施設使用料の支援を行った。  補助金交付件数 291件      交付額 20,199,000円</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(3) 近江文化発見・発信事業 <span style="float: right;">6,000,000円</span>          司馬遼太郎氏没後25年を記念し、滋賀県の魅力を県内外に発信するシンポジウムを開催するとともに、若い世代が文芸活動を通じて、滋賀への愛着を深め発信することを目的として高校生俳句コンクールを開催した。</p> <p>ア 司馬遼太郎氏没後25年記念シンポジウム「近江から見る『街道をゆく』のメッセージ」          実施日 : 令和3年10月30日(土)          実施場所: 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 中ホール          参加者数: 412人          実施内容: 基調講演 上村洋行氏(司馬遼太郎記念館館長)          パネルディスカッション          パネリスト: 安部龍太郎氏(作家)、澤田瞳子氏(作家)、今村翔吾氏(作家)          コーディネーター: 古屋和雄氏(元NHKエグゼクティブアナウンサー)</p> <p>イ 滋賀県高校生俳句コンクール          応募者数: 235名          表彰式 : 令和3年11月21日(日) 義仲寺無名庵にて開催</p> <p>(4) 滋賀県芸術文化祭の開催 <span style="float: right;">25,588,000円</span>          主催事業          公募展(美術展覧会、写真展覧会、文学祭)の開催 応募点数 : 1,766点          参加事業          開催期間中(令和3年9月～令和4年1月)に文化団体等が行う事業を参加事業として承認し、支援した。          参加事業数: 155事業          参加者数 : 延べ196,869人</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 文化情報誌等の発行・配布          県域の文化芸術情報を網羅した総合的な情報誌「湖国文化情報『わいかる』」を発行し、県内の文化施設や市町、商業施設等へ配布することにより、文化情報を効果的に発信できた。          また、滋賀の歴史や自然、芸術などについて幅広く掲載した総合文化誌「湖国と文化」を県内外の図書館や教育機関等に配布し、滋賀の魅力を広く発信することにより、滋賀の文化への興味・関心を高めた。</p>



事 項 名	成 果 の 説 明																						
	<p>(2) 【感】新型コロナウイルス感染症に係る文化芸術活動への支援 個人・団体を含め、音楽や美術、お祭り体験等様々な分野の文化活動の再開・継続を支援するとともに、県のホームページで動画等を紹介するなど、滋賀で活躍する活動者を県内外の人々に知ってもらう機会を提供した。</p> <p>(3) 近江文化発見・発信事業 県内外からの来場者に作家の目を通した滋賀の魅力を伝えることができた。また、高校生俳句コンクールは 235 名から応募があり、若い世代に俳句に親しんでもらうとともに、作句を通して言葉による文化の発信をすることができた。</p> <p>(4) 滋賀県芸術文化祭の開催 県民の芸術文化への関心はコロナ禍であっても高く、公募展の応募点数は、令和 2 年度と比較して 123 点増加し、コロナ前の水準まで応募点数が回復した。</p> <table border="0" data-bbox="734 699 1541 767"> <tr> <td>公募展の応募点数</td> <td>平 30</td> <td>令元</td> <td>令 2</td> <td>令 3</td> </tr> <tr> <td>(単位：点)</td> <td>1,693</td> <td>1,698</td> <td>1,643</td> <td>1,766</td> </tr> </table> <p>令和 4 年度（2022 年度）の目標とする指標</p> <table border="0" data-bbox="734 842 2085 911"> <tr> <td>市町や民間団体等と連携した文化芸術事業実施数</td> <td>令元</td> <td>令 2</td> <td>令 3</td> <td>目標値</td> <td>達成率</td> </tr> <tr> <td>(滋賀県芸術文化祭参加事業数および美の資源を活用した取組事業数)</td> <td>248 件</td> <td>194 件</td> <td>207 件</td> <td>290 件</td> <td>0%</td> </tr> </table> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 文化情報誌等の発行・配布 県の文化情報をより効果的に周知する方策について検討する必要がある。</p> <p>(2) 【感】新型コロナウイルス感染症に係る文化芸術活動への支援 より多くの方に申請いただけるよう、様々な機会をとらえて広報を行うとともに、相談会を開催するなど、制度の周知を図っていく必要がある。</p> <p>(3) 近江文化発見・発信事業 滋賀ならではの豊かで魅力ある文化を再発見し、また県外に対しても発信する取組を引き続き展開する必要がある。</p> <p>(4) 滋賀県芸術文化祭の開催 出品者の高齢化が進んでおり、若年層をはじめ幅広い年齢層の参加を促す必要がある。</p>	公募展の応募点数	平 30	令元	令 2	令 3	(単位：点)	1,693	1,698	1,643	1,766	市町や民間団体等と連携した文化芸術事業実施数	令元	令 2	令 3	目標値	達成率	(滋賀県芸術文化祭参加事業数および美の資源を活用した取組事業数)	248 件	194 件	207 件	290 件	0%
公募展の応募点数	平 30	令元	令 2	令 3																			
(単位：点)	1,693	1,698	1,643	1,766																			
市町や民間団体等と連携した文化芸術事業実施数	令元	令 2	令 3	目標値	達成率																		
(滋賀県芸術文化祭参加事業数および美の資源を活用した取組事業数)	248 件	194 件	207 件	290 件	0%																		

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 文化情報誌等の発行・配布</p> <p>①令和4年度における対応 新たな配布先の確保に努め、様々な文化情報を網羅し、迅速に発信するなど充実した誌面づくりを行う。</p> <p>②次年度以降の対応 引き続き、配布先の拡大に努めるとともに、新規読者の獲得につながるよう、より充実した誌面づくりを行う。</p> <p>(2) 【感】新型コロナウイルス感染症に係る文化芸術活動への支援</p> <p>①令和4年度における対応 多くの方に申請いただけるよう、ホームページやSNS、チラシによる地域の文化団体や文化施設への広報とともに、相談会を実施するなど、制度の周知に努める。</p> <p>②次年度以降の対応 県民、文化団体、民間団体など、多様な主体の文化芸術活動が自立的に継続していく方策を検討していく。</p> <p>(3) 近江文化発見・発信事業</p> <p>①令和4年度における対応 文学作品ゆかりの地を訪問し、現地で俳句を詠む吟行イベントや、高校生俳句コンクールを実施し、若い世代が県への愛着や俳句への関心を深める機会を創出する。</p> <p>②次年度以降の対応 文学作品等を通じた滋賀の魅力について、県内外に対して発信する取組を引き続き展開する。</p> <p>(4) 滋賀県芸術文化祭の開催</p> <p>①令和4年度における対応 新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分配慮した上で、若年層をはじめ幅広い年齢層の県民が参加できるよう、募集・実施方法等を工夫していく。</p> <p>②次年度以降の対応 引き続き、若年層を含め、幅広い年齢層の参加を促す。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>3 美の魅力発信の推進</p> <p>    予算額           13,172,000 円</p> <p>    決算額           11,535,409 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 美の資源活用推進・情報収集および一体的発信事業 <span style="float:right">8,175,549 円</span>  多様な主体が実施する美の資源を活用して地域を元気にする取組を支援し、連携を促進して一体的に情報発信するとともに、滋賀県立美術館内で展示やワークショップ等を開催し、美術館来館者にも知ってもらい機会を作った。  ・採択団体（8 団体）  ・連携推進会議 令和3年9月10日  ・オンライン成果発表会 令和4年3月8日（Zoom）  ・美術館内のラボ等を利用した活動内容の紹介展示、ワークショップの開催（12 回開催）  ・「『滋賀をみんなの美術館に』プロジェクトサイト」での情報発信</p> <p>(2) アール・ブリュットの魅力発信事業 <span style="float:right">1,998,240 円</span>  宿泊施設で作品展示を行い、アール・ブリュットの魅力発信に努めた。また、アール・ブリュットの作家および制作現場を紹介する映像を制作し、美術館および商業施設で映写した。  ・宿泊施設での作品展示 4 箇所  ・商業施設での映写 1 箇所</p> <p>(3) アール・ブリュット振興事業 <span style="float:right">427,800 円</span>  関係者間の交流を促進するため、平成25年2月に発足した全国ネットワークの事務局として運営を担った。  ・フォーラム（新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催）1 回  令和4年3月22日 視聴回数 延べ834回  ・令和3年度会員数 806件（団体 200件、個人 606件）</p> <p>(4) アートのひろば事業 <span style="float:right">933,820 円</span>  地域の施設や学校・団体等と連携し、子どもをはじめ多くの県民が美術の魅力に出会い、楽しむことができるワークショップや講座などを、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、美術館内やびわこ文化公園内で実施した。  ・「美の糸ローアートにどぼん！2021」  びわこ文化公園内の施設と連携し、合計27回のイベントを開催した。</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 美の資源活用推進・情報収集および一体的発信事業  県内の8 団体が事業を展開し、琵琶湖や各地域の産業・風景等、地域の資源を結び付けて発信するとともに、美術館内での展示やワークショップを実施し、県との連携をより深めることができた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(2) アール・ブリュットの魅力発信事業 宿泊施設でのアール・ブリュットの作品展示や、商業施設での映写を通じて、県民に身近なところでアール・ブリュットや作品の魅力を紹介することができた。</p> <p>(3) アール・ブリュット振興事業 新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施しているフォーラムをオンラインで実施し、美術、福祉、医療、行政等異なる立場の方々に、障害のある方とアートとの関係を見つめ未来へどのように繋げていくのか、改めて考える機会を作ることができた。</p> <p>(4) アートのひろば事業 新型コロナウイルス感染症の影響により、夏休みに予定していたイベントが軒並み中止となり、事業開始が10月からとなったが、感染状況を注視しながら少人数で実施した。 「美の糸ローアートにどぼん！2021」では、多様な滋賀の美の魅力との出会いを通じて、多くの方がつながりアートの魅力と楽しみ方を五感で体験できる機会を提供することができた。</p> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 美の資源活用推進・情報収集および一体的発信事業 プロジェクトの発展を通して、多様な美やアートを通じた人と地域、社会のつながりや、新たな創作活動への刺激を生み出すとともに、美の魅力を県民総ぐるみで伝えられるよう広がりを持たせていく必要がある。</p> <p>(2) アール・ブリュットの魅力発信事業 作品自体の魅力を発信することに加えて、作品を生み出した制作現場にもスポットライトを当て、より幅広くその魅力を発信していく方策を検討する必要がある。</p> <p>(3) アール・ブリュット振興事業 新型コロナウイルス感染症の状況も注視しながら、フォーラムや交流の活性化に向けて、企画や手法を検討する必要がある。</p> <p>(4) アートのひろば事業 新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえながら、これまでの事業を通じて蓄積したノウハウやネットワークを生かして、滋賀の美の魅力発信の拠点となるような取組をさらに進めていく必要がある。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 美の資源活用推進・情報収集および一体的発信事業</p> <p>①令和4年度における対応 さらなる相互連携や美術館との連携を深め、「美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に」というコンセプトのもと、多くの方々の共感・参画を得ながら取組を進める。</p> <p>②次年度以降の対応 引き続き、各団体の連携調整や美術館との連携、一体的な発信を通じて、新たな取組の創出や地域を越えた連携の創出を目指す。</p> <p>(2) アール・ブリュットの魅力発信事業</p> <p>①令和4年度における対応 アール・ブリュットから範囲を少し広げて、滋賀の福祉の現場から生まれた造形の魅力という観点での作品展示を行い、その魅力を伝え、滋賀ならではの文化資源をテーマとした観光や周遊のきっかけにつなげる。</p> <p>②次年度以降の対応 令和4年度の結果も踏まえ、より効果的な手法について、学芸員や福祉施設等の関係者を交え検討する。</p> <p>(3) アール・ブリュット振興事業</p> <p>①令和4年度における対応 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中でも、さらなる活動の広がりや関係者間の交流を促進するための方策を検討する。また、アール・ブリュットに関するメールマガジンを発行するなど、情報発信を積極的に行う。</p> <p>②次年度以降の対応 引き続き、情報発信を積極的に行い、ネットワークに関わる人や団体の広がりや活動の充実を図る。</p> <p>(4) アートのひろば事業</p> <p>①令和4年度における対応 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、引き続き美術館やびわこ文化公園内、県内各地でイベントを開催する。</p> <p>②次年度以降の対応 これまでの事業を通じて蓄積したノウハウやネットワークを生かしながら、美術館が滋賀の美の魅力発信の拠点となるよう、活動を行っていく。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>4 滋賀県立文化産業交流会館の管理運営 (指定管理)</p> <p>予 算 額            324,627,000 円</p> <p>決 算 額            320,887,190 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p>主催事業 計 63公演 延べ入場者数 21,701人</p> <p>公演制作事業 2公演 入場者数 477人 (主な公演) 芝居小屋「長栄座」</p> <p>人材養成事業 2公演 入場者数 1,449人 (主な公演) 次世代育成ユースシアター事業</p> <p>普及啓発事業 48公演 入場者数 15,397人 (主な公演) 次世代創造発信事業「アートのじかん」</p> <p>協働連携事業 4公演 入場者数 914人 (主な公演) 県民協働企画事業</p> <p>鑑賞事業 6公演 入場者数 2,560人 (主な公演) おかあさんといっしょコンサート</p> <p>産業振興事業 1公演 入場者数 904人 (主な公演) 近江のあたらしい伝統産業展</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による公演の中止 2公演</p> <p>貸館事業 貸館利用件数 計 727件 入場者数 33,755人</p> <p>2 施策成果</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止を余儀なくされた公演もあったが、感染症対策を徹底し、より多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供した。また、びわ湖ホールとの連携のもと、県北部における文化振興の拠点として、幅広い世代を対象とした事業を展開した。特に、邦楽・邦舞の公演では、芝居小屋「長栄座」を制作し、滋賀県をテーマにしたオリジナル邦楽作品を湖国の風景映像とともに上演するなど、より親しみやすい公演を県民に提供した。さらに、県民の方々に直接出演いただく公演を実施するなどの人材養成事業にも取り組んだ。</p> <p>入場者数 (主催事業)                    平30            令元            令2            令3 (単位：人)                                18,468        13,814        8,925        21,701</p> <p>3 今後の課題</p> <p>広報や公演内容等について、びわ湖ホールとの連携をさらに進めながら、特色のある事業を実施していく必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>①令和4年度における対応</p> <p>びわ湖ホール声楽アンサンブルによる公演を文化産業交流会館でも実施するなど、びわ湖ホールとの連携をさらに強化するとともに、「長栄座」をはじめ古典芸能分野で特徴的な事業展開を行い、県北部の文化拠点として賑わいを創出する。また、新型コロナウイルス感染症の状況に対応した公演を工夫しながら事業を実施する。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>5 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール<small>の管理運営（指定管理）</small></p> <p>予 算 額            898,879,000 円</p> <p>決 算 額            898,879,000 円</p>	<p>②次年度以降の対応 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、県民に文化芸術に触れる機会を提供し、県北部における文化振興の拠点として事業を展開する。 <span style="float: right;">（文化芸術振興課）</span></p> <p>1 事業実績</p> <p>  主催事業     オペラ、オーケストラ、室内楽、ダンス、演劇、古典芸能等の公演を開催。     41事業、121公演、入場者数 43,519人、有料公演平均入場率 58.6%     新型コロナウイルス感染症の影響による中止 8事業 8公演     新型コロナウイルス感染症に対応した配信事業も積極的に実施。     6事業、19公演、視聴者数 549人</p> <p>  専属声楽アンサンブル運営     オペラへの招待、プロデュースオペラ、定期公演、「ホールの子」事業、ふれあい音楽教室などに出演。</p> <p>  広報営業     広報活動 公演チケット情報「Stage」（年11回発行、各18,000部）、舞台芸術情報誌「湖響」（年4回、各11,000部）の発行、ホームページの運用、公演プログラム発行、新聞寄稿、雑誌、テレビ・ラジオ等     営業活動 チケットの企業・団体向け組織販売、インターネットによるチケット購入システム、民間助成金等の確保、友の会運営（一般会員 2,925人 サポート会員 393口 特別会員 166口）等     観客創造 劇場サポーター 136人、シアターメイツ 944人、ロビーコンサート、リハーサルの公開等</p> <p>  ホール施設および駐車場の管理運営     各ホール貸館利用件数 169件    入場者数 63,455人    駐車場利用台数 69,299台</p> <p>2 施策成果     コロナ禍においても感染症対策を徹底しながら、多彩なジャンルで国内外の優れた公演を開催するとともに、国際的水準の舞台芸術を制作し公演を実施するなど、県民文化の向上に貢献する事業を展開した。     また、新型コロナウイルス感染症の影響により、来場できない方のために公演映像を配信するなど、より多くの方が文化に触れる機会を提供した。</p> <p>主催事業入場者数            平30            令元            令2            令3 （単位：人）            112,722        93,979        31,798        43,519</p>

事 項 名	成 果 の 説 明										
	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding-left: 20px;">貸館事業入場者数 (単位：人)</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">平30 140,751</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">令元 72,903</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">令2 22,112</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">令3 63,455</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">貸館件数 (単位：件)</td> <td style="text-align: center;">平30 228</td> <td style="text-align: center;">令元 158</td> <td style="text-align: center;">令2 95</td> <td style="text-align: center;">令3 169</td> </tr> </table> <p>3 今後の課題 新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、引き続き国際的水準の舞台芸術を県民に提供し、それを国内外に発信していく必要がある。また、オペラの制作など積極的な事業展開を行うため、公演チケットをはじめとする事業収入の拡大、国や民間助成金等の収入の拡大、貸館利用の拡大、積極的な寄附獲得など歳入確保に向けた取組が必要である。</p> <p>4 今後の課題への対応 ①令和4年度における対応 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」や歌劇「ファルスタッフ」等を実施した。今後も、感染状況に対応した公演を工夫しながら実施し、文化芸術公演の鑑賞機会を創出する。 ②次年度以降の対応 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、より多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供する。また、積極的な広報活動による事業収入の拡大のほか、国や民間の助成金、寄附のさらなる獲得に向けて取り組む。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p>	貸館事業入場者数 (単位：人)	平30 140,751	令元 72,903	令2 22,112	令3 63,455	貸館件数 (単位：件)	平30 228	令元 158	令2 95	令3 169
貸館事業入場者数 (単位：人)	平30 140,751	令元 72,903	令2 22,112	令3 63,455							
貸館件数 (単位：件)	平30 228	令元 158	令2 95	令3 169							
<p>6 美術館における事業の推進</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding-left: 20px;">予 算 額</td> <td style="width: 15%; text-align: right;">105,835,000 円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">決 算 額</td> <td style="text-align: right;">98,155,132 円</td> </tr> </table>	予 算 額	105,835,000 円	決 算 額	98,155,132 円	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 展覧会の開催 <span style="float: right;">77,356,679円</span> 令和3年6月27日に再開館し、県内の若手作家や寺院、他の美術館との連携により、多様な視点での展覧会を開催した。開催にあたっては新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館者にマスク着用や手指消毒等の協力を依頼しながら開催した。 常設展示 3回 企画展示 3回 観覧者数 52,080人 (年度内延べ人数)</p> <p>(2) 美術に関する教育交流事業の実施 <span style="float: right;">11,371,261円</span> 美術に関する魅力や楽しさに触れてもらうためのイベントや出前授業を地域と連携して、館内外で開催した。 ・たいけんびじゅつかん 7回実施、参加者 176人</p>						
予 算 額	105,835,000 円										
決 算 額	98,155,132 円										



事 項 名	成 果 の 説 明
<p>予 算 額 364,117,000 円</p> <p>決 算 額 364,117,000 円</p>	<p>・学校出前授業プログラム 32回実施、参加者 1,601人</p> <p>・地域出前プログラム 13回実施、参加者 620人 など</p> <p>(3) 美術品の収集と保全 9,427,192円</p> <p>作品収集 26件 (購入 3件、寄贈 23件)</p> <p>作品修復 12件</p> <p>2 施策成果</p> <p>6月に再開館し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら展覧会やイベントを実施し、県内外の多くの方に当館の所蔵品をはじめ多様な美術に出会える機会や美術の魅力を体験する機会を提供した。</p> <p>3 今後の課題</p> <p>今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組みながら、収蔵品の価値や滋賀の文化の魅力を県内外の多くの方に知っていただける展覧会や、子どもをはじめ多くの県民が美術の楽しさに触れることができるプログラムなどの充実に努める。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>①令和4年度における対応</p> <p>「生誕150年山元春挙展」、「塔本シスコ展」、「石と植物展」などの企画展やワークショップシリーズ（アートにどぼん！）などの取組を、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら実施する。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>魅力的な展覧会を企画・開催するとともに、積極的な情報発信を展開する。また、美術館の活動を継続・発展させることができるように県美メンバーズおよびサポーターの増加に努めていく。</p> <p>(文化芸術振興課)</p> <p>7 希望が丘文化公園の管理運営（指定管理）</p> <p>1 事業実績</p> <p>青少年育成事業等 58事業、参加者総数 45,742人</p> <p>3つのゾーン（青少年宿泊研修所、野外活動施設、スポーツ施設）のそれぞれの特色を生かした事業を実施。</p> <p>・自然体験 四季のハイキング、自然観察会など</p> <p>・ふれあい交流イベント 紅葉祭、ふれあい祭など</p> <p>・野外活動・宿泊体験 ファミリーキャンプフェスタなど</p> <p>・スポーツ振興 スポーツフェスティバル、ディスクゴルフ大会など</p>

事 項 名	成 果 の 説 明																																								
	<p>施設の運営管理 来園者総数 656,403人</p> <p>施設の利用状況</p> <table border="0"> <tr> <td>・青少年宿泊研修所（青年の城）</td> <td>利用件数</td> <td>157件</td> <td>利用者数</td> <td>14,143人</td> </tr> <tr> <td>・野外活動施設</td> <td>利用件数</td> <td>335件</td> <td>利用者数</td> <td>6,661人</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ施設</td> <td>利用件数</td> <td>2,090件</td> <td>利用者数</td> <td>100,951人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>利用件数</td> <td>2,582件</td> <td>利用者数</td> <td>121,755人</td> </tr> </table> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による施設利用の取り止め 756件</p> <p>2 施策成果</p> <p>恵まれた自然環境を生かした憩いの公園として、安心安全、快適な施設提供に努めるとともに、県民文化の向上、健康の維持や体力の向上、青少年の健全育成のための各種事業を実施した結果、新型コロナウイルス感染症の影響がある中においても、多くの来園者があり、県民に身近な親しまれる公園としての機能を果たした。</p> <p>また、地元関係機関や団体等との連携・協働を深める取組を重視しつつ、魅力的な公園づくりに努めたほか、3月から9月の休園日（月曜日）の開園や、夏期における利用時間の延長を行うなど、利用者サービスの向上に努めた。</p> <table border="0"> <tr> <td>来園者総数</td> <td>平30</td> <td>令元</td> <td>令2</td> <td>令3</td> </tr> <tr> <td>（単位：人）</td> <td>903,290</td> <td>934,116</td> <td>502,915</td> <td>656,403</td> </tr> <tr> <td>施設利用者数</td> <td>平30</td> <td>令元</td> <td>令2</td> <td>令3</td> </tr> <tr> <td>（単位：人）</td> <td>260,408</td> <td>224,096</td> <td>82,910</td> <td>121,755</td> </tr> </table> <p>3 今後の課題</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら、公園の強みを生かした事業展開や、安心・快適に利用できる施設の整備などを進める必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>①令和4年度における対応</p> <p>利用者に安全・快適に利用していただけるよう新型コロナウイルス感染症の状況に応じた対応をしつつ、公園運営を継続することに努める。</p>	・青少年宿泊研修所（青年の城）	利用件数	157件	利用者数	14,143人	・野外活動施設	利用件数	335件	利用者数	6,661人	・スポーツ施設	利用件数	2,090件	利用者数	100,951人	計	利用件数	2,582件	利用者数	121,755人	来園者総数	平30	令元	令2	令3	（単位：人）	903,290	934,116	502,915	656,403	施設利用者数	平30	令元	令2	令3	（単位：人）	260,408	224,096	82,910	121,755
・青少年宿泊研修所（青年の城）	利用件数	157件	利用者数	14,143人																																					
・野外活動施設	利用件数	335件	利用者数	6,661人																																					
・スポーツ施設	利用件数	2,090件	利用者数	100,951人																																					
計	利用件数	2,582件	利用者数	121,755人																																					
来園者総数	平30	令元	令2	令3																																					
（単位：人）	903,290	934,116	502,915	656,403																																					
施設利用者数	平30	令元	令2	令3																																					
（単位：人）	260,408	224,096	82,910	121,755																																					

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>8 希望が丘文化公園基本計画の推進</p> <p>予 算 額 1,060,267,000 円</p> <p>決 算 額 984,419,286 円</p> <p>(翌年度繰越額 25,000,000 円)</p>	<p>②次年度以降の対応 開園後50年を経て施設の老朽化が顕著であり、来園者の安全・快適な利用のため、優先順位を付けた施設修繕や施設等の点検に努める。 <span style="float: right;">(文化芸術振興課)</span></p> <p>1 事業実績</p> <p>(1) 希望が丘文化公園の活性化の検討 民間企業等へのサウンディングを踏まえ、公園全体の効果的・効率的な管理運営方法や活性化の方向性を検討した。</p> <p>(2) スポーツゾーン施設整備の推進 滋賀県ラグビーフットボール協会等へヒアリングを実施し、陸上競技場、スポーツ会館の整備工事を実施した。</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 希望が丘文化公園の活性化の検討 希望が丘文化公園整備基本調査業務委託において、民間企業へのサウンディング等を実施し、各企業からの意見に基づいた活性化の方向性案を整理した。</p> <p>(2) スポーツゾーン施設整備の推進 整備工事について、陸上競技場は令和3年12月9日に、スポーツ会館は令和4年3月10日に工事が完了した。国民スポーツ大会開催も見据え、着実に施設整備を進めることができた。</p> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 希望が丘文化公園の活性化の検討 令和4年度に文化ゾーン、野外活動ゾーンだけでなくスポーツゾーン、東西のアクセスも含めた公園全体の活性化方針の策定を行い、活性化業務を進める必要がある。</p> <p>(2) スポーツゾーン施設整備の推進 球技場への照明設備設置工事やトイレ改修を確実に実施していく必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 希望が丘文化公園の活性化の検討</p> <p>①令和4年度における対応 活性化方針の策定に向けた活性化方針策定支援業務委託の中で、整備内容等の精緻化や方針策定後を見据えたサウンディング等の業務を行い、活性化方針の策定を実施する。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>9 文化財の保存と継承</p> <p>予 算 額 1,444,521,000円</p> <p>決 算 額 1,380,348,452円</p> <p>(翌年度繰越額 55,320,000円)</p>	<p>②次年度以降の対応 活性化方針に基づき、自然環境調査や公募資料作成業務を行う。</p> <p>(2) スポーツゾーン施設整備の推進</p> <p>①令和4年度における対応 球技場への照明設備設置工事やトイレの改修を着実にを行う。</p> <p>②次年度以降の対応 施設整備は令和4年度で完了の予定。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p> <p>1 事業実績</p> <p>(1) 指定文化財の保護 <span style="float: right;">653,753,630円</span></p> <p>ア 県指定文化財の新指定 5件 (有形文化財 4件、天然記念物 (追加) 1件)</p> <p>イ 国指定文化財保存修理等補助 27件 (うち前年度繰越 2件)</p> <p>ウ 県指定文化財保存修理等補助 7件</p> <p>エ 埋蔵文化財発掘調査等補助 16市町</p> <p>(2) 発掘調査等の実施 <span style="float: right;">235,594,775円</span></p> <p>ア 公共事業関連緊急発掘調査費 発掘調査等受託件数：13件</p> <p>イ 試掘・確認調査 試掘調査等件数：20件</p> <p>(3) 史跡の保存整備等の実施 <span style="float: right;">16,805,707円</span></p> <p>ア 史跡公有化 公有化実施史跡：近江大津宮錦織遺跡 (83.58㎡)</p> <p>イ 県有史跡地の維持管理</p> <p>(4) 文化財保存修理受託事業の実施 <span style="float: right;">474,194,340円</span></p> <p>ア 文化財保存修理受託事業費 受託件数：5件 (うち前年度繰越 1件)</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 指定文化財の保護</p> <p>県指定文化財の新指定や滋賀県文化財保存基金を活用し文化財の保存修理等に対して支援を行うことにより、次の世代へ引き継ぐべき国民的財産である文化財の保存を図ることができた。</p> <p>また、計画的かつ適切な時期に保存修理を実施するために滋賀県文化財保存基金に原資の積立てを行うことができた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(2) 発掘調査等の実施 埋蔵文化財の試掘・確認調査や国土交通省等からの受託事業を計画的に行うことで、埋蔵文化財の保存と公共事業の円滑な推進を図ることができた。</p> <p>(3) 史跡の保存整備等の実施 緊急性の高い土地の公有化や県有史跡地の維持管理等を行うことで、地域の歴史にとって重要な価値を持つ史跡を適切に保存することができた。</p> <p>(4) 文化財保存修理受託事業の実施 国指定文化財建造物について、社寺等の所有者から委託を受けて保存修理工事を行うことで、破損の著しい建造物を計画的に修理することができた。</p> <p>3 今後の課題 本県には、国指定等文化財が 1,439件、県指定文化財が 516件あり、重要文化財の指定件数は全国第4位（令和3年度末時点）である。これら数多くの優れた文化財を次の世代に良好に引き継いでいくため、国、市町、所有者等と連携し、計画的な保存・修理に努めていく必要がある。 平成30年度および令和元年度の文化財保存修理工事において、職員が官製談合防止法違反および公契約関係競売入札妨害により逮捕・起訴されたことを重く受け止め、今後、不適切事案を発生させないよう、第三者による検証会議を設置し、検証を行った。この検証結果を踏まえ再発防止に取り組む必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 指定文化財の保護</p> <p>①令和4年度における対応</p> <p>ア 県指定文化財の新指定のための調査および審議会の開催</p> <p>イ 国指定文化財保存修理等補助予定件数 32件（うち前年度繰越 4件）</p> <p>ウ 県指定文化財保存修理等補助予定件数 11件（うち前年度繰越 1件）</p> <p>エ 埋蔵文化財発掘調査等補助予定件数 16件</p> <p>②次年度以降の対応 引き続き滋賀県文化財保存基金を活用して計画的に保存修理等のための支援を進める。</p> <p>(2) 発掘調査等の実施</p> <p>①令和4年度における対応</p> <p>ア 発掘調査等受託予定件数 11件</p> <p>イ 試掘調査等予定件数 14件</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>10 文化財の魅力の発信</p> <p>予 算 額        263,635,000 円</p> <p>決 算 額        257,939,579 円</p>	<p>②次年度以降の対応 開発事業計画を早期に把握し、中長期的な発掘調査事業量の見通しをたて、発掘調査等の円滑な実施を図る。</p> <p>(3) 史跡の保存整備等の実施</p> <p>①令和4年度における対応 緊急性の高い史跡地の公有化（近江大津宮錦織遺跡）を進めるとともに、継続して県有史跡地の適切な維持管理を行う。</p> <p>②次年度以降の対応 所有者の要望等を考慮し計画的に史跡地の公有化を進める。</p> <p>(4) 文化財保存修理受託事業の実施</p> <p>①令和4年度における対応 国指定建造物保存修理事業の予定件数 4件（うち前年度繰越 1件） 不適切事案に係る再発防止策においては、業務量の削減の観点から工事の難易度に応じて民間団体に協力を得ることにより県としての業務量軽減を図っている。また、奈良県との人事交流などにより、職員の負担軽減や人材育成等に努めている。</p> <p>②次年度以降の対応 国指定建造物保存修理事業については、引き続き計画的な修理を実施していく。 不適切事案に係る再発防止策について、主任技術者の養成には時間を要することや、全国的にも不足している状況であることから、すぐに確保することは容易ではないが、継続的かつ長期的な人材育成・確保に努めるなど、再発防止に向けた取組を進める。</p> <p style="text-align: right;">（文化財保護課）</p> <p>1 事業実績</p> <p>(1) 文化財の魅力の発信 <span style="float: right;">40,341,552 円</span></p> <p>ア 「近江の城」魅力発信事業 近江の城の魅力を全国に向けて広く発信し、滋賀への来訪者の拡大を図ることを目的に、首都圏での情報発信事業と県内での探訪交流事業等を実施した。</p> <p>【首都圏での取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京シンポジウム        1回        142人（うち53人はサテライト会場にて参加）</li> <li>・東京講座                2回        34人</li> <li>・移住希望者向けセミナー 1回        20人（オンラインによる実施）</li> <li>・お城EXPOへの出展        2日間    13,140人</li> </ul>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>【県内での取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出張！お城EXPO in 滋賀・びわ湖 1日間 2,043人</li> <li>・県内文化財探訪・講座 3回 130人</li> </ul> <p>イ 「輪でつなぐ」滋賀の文化財講座事業 文化財に関する講座をサテライト会場でオンライン配信を実施した。また、県内高校で出前講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サテライト会場での配信 4回（延べ11会場） 100人</li> <li>・高校での出前講座 延べ470人</li> </ul> <p>ウ 文化財の保存修理の最前線！発信事業 建造物の屋根の葺き替え工事と曳山の保存修理現場の動画を作成し、テレビ番組やYouTubeにより広く発信した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画配信 7本</li> </ul> <p>エ 近江の文化財を活用した県民・地域健康増進事業 滋賀の文化財の魅力の体感と、県民や地域全体の健康増進を図ることを目的として、滋賀の文化財を巡る動画を作成しYouTubeにて公開した。また、当該動画のウォーキングコースの一部を巡るイベントを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングイベント 2回 参加者62人</li> </ul> <p>オ 彦根城世界遺産登録推進事業 彦根城の世界遺産登録を実現するために、推薦書および包括的保存管理計画の素案の作成を行った。併せて、機運醸成のための取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦書および包括的保存計画の素案作成</li> <li>・機運醸成を図るために専用ホームページ等の作成</li> <li>・民間団体と連携した機運醸成の取組等を実施</li> </ul> <p>カ 「幻の安土城」復元プロジェクト事業 安土城の実像を明らかにし、見える化を図ることで安土城への注目を集めることを目的として、安土城の実像解明と保全、デジタル技術を活用した安土城の見える化、機運醸成の取組の3つの柱で事業を実施した。</p> <p>(ア) 安土城の実像解明と保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和の大調査に向けた特別史跡安土城跡整備基本計画の策定作業（令3～令4）</li> </ul> <p>(イ) デジタル技術を活用した安土城の見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画の策定</li> <li>・「安土山図屏風」等の探索を実施</li> </ul> <p>(ウ) 機運醸成の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ滋賀歴史セミナーの実施</li> </ul>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(2) 博物館事業の充実 <span style="float: right;">217,598,027円</span></p> <p>ア 安土城考古博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示事業           <ul style="list-style-type: none"> <li>常設展、特別展 2回、企画展 2回、特別陳列、ロビー展示、回廊展示、屋外展示</li> </ul> </li> <li>・来館者数 26,217人</li> <li>・普及啓発事業           <ul style="list-style-type: none"> <li>講演・講座等（城郭探訪含む） 26回 827人</li> <li>体験学習・ワークショップ 3回 29人</li> <li>博学連携事業（生徒・引率者数）27校 1,470人</li> </ul> </li> <li>・浄化槽曝気ブロワ・企画展収蔵室空調機器等の更新</li> <li>・令和3年8月の大雨で被害のあった敷地内の園路、園池、側溝の修繕</li> </ul> <p>イ 琵琶湖文化館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示事業（休館中のため他の博物館で開催）           <ul style="list-style-type: none"> <li>琵琶湖文化館地域連携企画展の開催 2回               <ul style="list-style-type: none"> <li>高島市藤樹の里文化芸術会館他（令和3年10月22日～11月14日） 入館者数：1,165人</li> <li>滋賀県立安土城考古博物館（令和4年2月5日～4月3日） 入館者数：4,254人</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・普及啓発事業 講座「滋賀の文化財講座 花湖さんの打出のコツチ」6回 499人</li> <li>・（仮称）新・琵琶湖文化館の整備に向け、「滋賀県PPP/PFI手法導入優先的検討方針」に基づき、PFI可能性調査業務を実施。</li> </ul> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 文化財の魅力の発信</p> <p>ア 「近江の城」魅力発信事業</p> <p>首都圏での情報発信については、「戦国の近江」魅力発信事業からの継続的な事業実施の効果により、リピーターが定着してきたとともに、お城EXPOのような大規模なイベントに参加することにより、より幅広く発信ができた。また、県内での取組においても、出張！お城EXPO in 滋賀・びわ湖や文化財探訪・体験に多くの方に参加いただき、本県の文化財の魅力を発信できた。</p> <p>イ 「輪でつなぐ」滋賀の文化財講座事業</p> <p>文化財に関する講座をサテライト会場でオンライン配信することにより、新型コロナウイルス感染症対策として、1つの会場で集中した集客を行うのではなく、複数会場に分散した形で講座を行うことができた。また、サテライト会場を設けることで、より多くの方が講座に参加する機会を設けることができた。</p>



事 項 名	成 果 の 説 明												
	<p>ウ 文化財の保存修理の最前線！発信事業 文化財建造物等の保存修理の現場や文化財技師の仕事を映像により迫り、文化財が身近ではない方に対しても文化財や伝統的技術の魅力や大切さを発信することができた。</p> <p>エ 近江の文化財を活用した県民・地域健康増進事業 県内の文化財をウォーキングによって巡ることで、文化財の魅力の体感と、県民や地域全体の健康増進を図ることができた。また、ウォーキングルートの動画を配信することで、イベントに来られない方に対しても発信することができた。</p> <p>オ 彦根城世界遺産登録推進事業 令和2年度に文化庁に提出した推薦書および包括的保存管理計画の素案を学術会議およびワーキング会議等の開催等により磨き上げを行うことができた。併せて、専用ホームページの作成、映像やポスター等を活用した発信、民間団体と連携した取組により機運醸成を図ることができた。</p> <p>カ 「幻の安土城」復元プロジェクト事業 全国的にも高い知名度を誇る戦国の城であるが、その実像については謎に包まれている部分が多い安土城の復元プロジェクトを行うことにより、安土城や滋賀の歴史等に対して多くの注目を集めることができた。 デジタル技術を活用した安土城の見える化に関して、デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画を策定し、見える化の基本方針、ゾーニング、ゾーンごとの見える化の方向性を決定することができた。</p> <p>(2) 博物館事業の充実 展示および講座等の実施や情報発信により、本県の歴史文化資産の価値や魅力を紹介することができ、近江の優れた歴史文化に対する理解を深めることに寄与することができた。 また、（仮称）新・琵琶湖文化館の整備に向け、PFI可能性調査業務を実施し、従来型手法による場合とPPP/PFI手法を導入した場合との間で費用総額等を比較し、PFI（BT0）手法が適するとの評価を得ることができた。</p> <table border="1" data-bbox="734 1077 1937 1145"> <thead> <tr> <th>令和4年度（2022年度）の目標とする指標</th> <th>令元</th> <th>令2</th> <th>令3</th> <th>目標値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財を活用した県実施事業参加者数</td> <td>2,813人</td> <td>3,017人</td> <td>3,337人</td> <td>3,040人</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 今後の課題 (1) 文化財の魅力の発信 本県は豊かな歴史に育まれた豊富な文化財を有しているが、その存在や価値がまだ十分に知られていないため、引き続き県内外へより効果的な魅力発信を行っていく必要がある。 また、彦根城の世界遺産登録の実現に向けた取組や、「幻の安土城」復元プロジェクト等の事業を着実に推進する必要がある。</p>	令和4年度（2022年度）の目標とする指標	令元	令2	令3	目標値	達成率	文化財を活用した県実施事業参加者数	2,813人	3,017人	3,337人	3,040人	100%
令和4年度（2022年度）の目標とする指標	令元	令2	令3	目標値	達成率								
文化財を活用した県実施事業参加者数	2,813人	3,017人	3,337人	3,040人	100%								

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(2) 博物館事業の充実</p> <p>ア 安土城考古博物館 大規模な設備改修や展示見直しが必要な時期となっている。</p> <p>イ 琵琶湖文化館 (仮称)新・琵琶湖文化館が整備されるまでの間、収蔵品の適切な環境整備を行うとともに、地域連携企画展の開催などによる収蔵品の活用を継続して実施する必要がある。また、(仮称)新・琵琶湖文化館の着実な整備に向けて検討等を進める必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 文化財の魅力の発信</p> <p>①令和4年度における対応 彦根城世界遺産登録推進事業では、より一層の推薦書等の磨き上げやシンポジウム開催等の機運醸成の取組を行う。「幻の安土城」復元プロジェクト事業では、安土城の実像解明を図るため令和の大調査に向けた特別史跡安土城跡整備基本計画を策定するとともに、安土城への注目を集めるためデジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本設計の作成を行う。それらの事業と併せて、県内外の各地で城に関するイベントや講座を実施することにより、城をはじめとした本県ならではの文化財の魅力発信を行う。</p> <p>②次年度以降の対応 本県の豊富な文化財の存在や価値を十分に周知していくためには継続的な取組が必要であり、今後も様々な場面で文化財を活用し、その魅力の発信を行う。</p> <p>(2) 博物館事業の充実</p> <p>①令和4年度における対応 安土城考古博物館については、長期保全計画に基づき計画的に設備更新を進めていくとともに、「幻の安土城」復元プロジェクトの情報発信拠点として第一期展示改修を行うために実施設計の作成を行う。琵琶湖文化館については、引き続き地域連携企画展を開催するとともに、令和9年度の(仮称)新・琵琶湖文化館の開館に向けて、実施方針等の作成、入札公告など新文化館の着実な整備に向けて取組を進める。</p> <p>②次年度以降の対応 安土城考古博物館については、安土城考古博物館展示改修実施設計を基に第一期展示改修を実施する。琵琶湖文化館については、事業契約の上、設計業務等の開館に向けた整備を進めていく。</p> <p style="text-align: right;">(文化財保護課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
11 スポーツの総合的な振興  予 算 額      69,604,000 円  決 算 額      65,276,239 円	1 事業実績 (1) 生涯スポーツ振興事業の推進 <span style="float:right">4,946,619円</span> ア 広域スポーツセンターの運営 市町巡回指導の実施      実施回数 87回 アシスタントマネージャー養成講習会 受講者数 15人 (2月19日～2月20日 草津アマカホール) 地域スポーツ指導者研修会 受講者数 50人 (12月4日 立命館大学、12月11日 長浜バイオ大学ドーム) 広報紙の作成、ホームページの管理・運営 イ 運動・スポーツ実施率の向上 運動・スポーツ習慣化促進事業 実施回数 26回      参加者数延べ 124人 (2) しがスポーツの魅力の総合発信 <span style="float:right">5,806,520円</span> ア 「しがスポーツ大使」と県民との交流推進事業 実施回数 13回 参加人数1,732人 「しがスポーツ大使」新規委嘱 8者 累計 48者 (個人 39人と団体 9者) イ 運動遊び指導者派遣「しがスポーツの子」事業 2回 参加園児数 30人 ウ スポーツ情報発信サイト「しがスポーツナビ！」運營業務委託 アクセス件数 94,613件 (3) プロスポーツを活用した県民のスポーツ推進 <span style="float:right">12,525,000円</span> ア 県内プロスポーツ等4チーム (滋賀レイクスターズ、東レアローズ、MIOびわこ滋賀、滋賀G0ブラックス) の試合会場において、横断幕等の掲示や電光掲示板による広告掲出により第79回国民スポーツ大会・第24回全国 障害者スポーツ大会等のスポーツ大会の周知と機運醸成を図った。 試合観戦者数 約5万人 イ チームの保有するSNS等において運動習慣化や障害者スポーツ振興を目的とした動画を配信し、県民の運動・ スポーツ実施率の向上や障害者スポーツの普及のための啓発事業を実施した。 SNS登録者数 約9万7千人 (4) 障害者スポーツの振興 <span style="float:right">41,998,100円</span> ア 滋賀県障害者スポーツ大会 (選考会の部、スポーツフェスタの部、スペシャルスポーツの広場) 開催 選考会の部：開催日 9月18日、10月2日、10月9日、10月31日、11月6日、11月14日 参加者数 479人 スポーツフェスタの部：開催日 6月12日、6月26日、7月3日、7月24日 参加者数 219人 スペシャルスポーツの広場：延べ9回実施 (高島市、東近江市、長浜市、大津市) 参加者数 201人 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の日程を中止。

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>イ 全国障害者スポーツ大会選手派遣（三重県）            本大会 10月23日～10月25日 新型コロナウイルス感染症の影響により大会中止（派遣予定者数 選手 57人）            代替大会 12月5日, 12月12日 ソフトボール競技、サッカー競技（2種目開催 派遣選手 32人）</p> <p>ウ 滋賀県障害者スポーツ協会運営費の補助            競技力向上委員会 1回、強化委員会 3回、コーチング講座（新型コロナウイルス感染症の影響により中止）</p> <p>エ 障害者スポーツ推進事業・障害者スポーツ共生社会プロジェクト            障害者スポーツ教室開催 14クラブ 参加者数 延べ 758人            関係団体へのコーディネーター訪問支援 22回            障害者スポーツ理解促進事業 障害者スポーツ体験会の開催 2回 参加者数 延べ43人            ※新型コロナウイルス感染症の影響により、教室やイベント等については規模を縮小し実施した。</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 生涯スポーツ振興事業の推進</p> <p>ア 身近な地域での核となる総合型地域スポーツクラブについて、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、日常的な練習会など各事業が再開できた。また、広域スポーツセンターを中心にアドバイザーの派遣やオンライン説明会等を実施することにより、クラブの組織運営の助言・指導や登録・認証制度の施行に向けての準備に関する支援を実施することができた。</p> <p>イ 民間団体のノウハウ等を活用し、働き盛りの世代や女性等に対して、魅力的な運動プログラム等の提供を行うことで、継続的に運動をするきっかけを作ることができた。</p> <p>(2) しがスポーツの魅力の総合発信</p> <p>ア 「しがスポーツ大使」として新たに8者を委嘱するとともに「しがスポーツ大使」と県民との交流により、スポーツの魅力発信を図ることができた。</p> <p>イ 県内のこども園等に運動遊び指導者を派遣し、運動遊びプログラム「Pic」を活用した運動遊びを実施することにより、「Pic」の普及ならびに子どもが運動遊びに取り組むきっかけとすることができた。</p> <p>ウ 県内のスポーツに関する情報を総合的に発信するポータルサイト「しがスポーツナビ！」を運営し、県民の「する」「みる」「支える」スポーツ活動を支援する情報を発信するとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックの専用ページを新設し、滋賀ゆかりの選手や競技スケジュールおよび試合結果を紹介することで、気運の醸成を図ることができた。</p> <p>(3) プロスポーツを活用した県民のスポーツ推進</p> <p>プロスポーツ等の持つ集客力や発信力等を活用し、試合会場における県内で開催される大規模スポーツ大会等のPRを実施することができた。また、チームのSNS等を活用して運動・スポーツの習慣化や障害者スポーツの普及に向けた啓発により県民の運動・スポーツのきっかけをつくることができた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明												
	<p>(4) 障害者スポーツの振興</p> <p>ア 新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、大部分の滋賀県障害者スポーツ大会を開催することができ、障害のある人の社会参加の場としての役割を果たせた。特に、県大会等への新たな参加者（特に若年層）を増やすため新たに創設した「フェスタの部」には、219名の参加者があった。</p> <p>イ 障害者スポーツに取り組む総合型地域スポーツクラブは14クラブであり、新型コロナウイルス感染症の影響により教室を一部中止・規模縮小したものの、感染拡大防止対策を行いながら教室開催することでコロナ禍でも運動・スポーツの機会を提供することができた。障害者スポーツ理解促進事業では、障害者スポーツに関する体験会を障害者福祉センターで行い、障害者スポーツを知っていただく機会を提供することで理解促進を図ることができた。</p> <p>令和4年度（2022年度）の目標とする指標</p> <table border="1" data-bbox="712 662 2018 730"> <thead> <tr> <th>・成人（男女）の週1回以上のスポーツ実施率</th> <th>令元</th> <th>令2</th> <th>令3</th> <th>目標値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>44.1%</td> <td>48.7%</td> <td>52.0%</td> <td>65%以上</td> <td>55.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 生涯スポーツ振興事業の推進</p> <p>ア 総合型地域スポーツクラブは、令和4年4月時点で56クラブ設立されており、令和4年度から導入が予定されているクラブの公益的な取組の促進やガバナンスの強化等を目的とする登録・認証制度の円滑な実施に向けて、クラブの組織運営の強化等について支援していく必要がある。</p> <p>イ 成人の週1回以上のスポーツ実施率は、国の56.4%に対して県は52.0%と下回っているが、令和2年度から上昇が見られ、コロナ禍にあっても県民の運動・スポーツに対する意識は着実に高まっている。今後は、実施率が低い働き盛りの世代や女性に対し、より多くの人々が継続的にスポーツに取り組めるよう、オンラインの活用や市町と連携した取組などにより、効果的に事業を展開していく必要がある。</p> <p>(2) しがスポーツの魅力の総合発信</p> <p>ア スポーツの魅力発信を充実するため「しがスポーツ大使」の委嘱を進めるとともに、多くの県民が大使との交流事業を通じて運動・スポーツに興味関心を持っていただけるよう、引き続き交流事例の発信や関連団体等を通じた事業周知を行う必要がある。</p> <p>イ 「しがスポーツの子」事業については、遊びを通じて発達段階に応じた動きを身に着けるために専門の指導者による運動遊びプログラム「Pic」を活用した運動遊びの充実を図り、県内の幼稚園、保育園、認定こども園等において、「Pic」を定着していく必要がある。</p> <p>ウ 「しがスポーツナビ！」について、より一層魅力あるサイトにしていくため、話題性の高い情報や様々な本県スポーツイベント等の情報の発信、タイムリーな話題をこまめに更新していく必要がある。</p>	・成人（男女）の週1回以上のスポーツ実施率	令元	令2	令3	目標値	達成率		44.1%	48.7%	52.0%	65%以上	55.2%
・成人（男女）の週1回以上のスポーツ実施率	令元	令2	令3	目標値	達成率								
	44.1%	48.7%	52.0%	65%以上	55.2%								

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(3) プロスポーツを活用した県民のスポーツ推進 県内のプロスポーツ等4チームの試合会場でPRや啓発を実施しているが、新型コロナウイルス感染症を踏まえ、試合会場以外でも実施できる効果的な情報発信の方法について引き続き検討していく必要がある。</p> <p>(4) 障害者スポーツの振興</p> <p>ア 滋賀県障害者スポーツ協会をはじめ、福祉・教育・スポーツ分野の関係者や団体と連携し、障害者スポーツ大会等を周知するとともに、参加しやすいきっかけづくりや環境づくりに取り組む必要がある。</p> <p>イ 総合型地域スポーツクラブをはじめとする地域スポーツ団体等における障害者スポーツの実践を広めるため、障害者スポーツを実施している団体のノウハウ等の共有を図るとともに、新規に取り組む団体を掘り起こしていく必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 生涯スポーツ振興事業の推進</p> <p>①令和4年度における対応</p> <p>ア 総合型地域スポーツクラブが地域スポーツコミュニティの核として発展するよう、クラブに対して登録・認証制度の必要性を周知するとともに、クラブアドバイザーによる市町巡回支援や講習会・研修会を継続して実施する。また、総合型地域スポーツクラブの普及啓発として、クラブの活動内容を冊子に取りまとめ、ホームページに掲載するなど継続して広報活動を実施する。</p> <p>イ 県民のスポーツ実施状況について調査を行い、成人の週1回以上のスポーツ実施率について進捗の確認を行うとともに健康部局等と連携して多くの人が参加できるイベント等によりスポーツ習慣化の取組を推進する。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>ア 広域スポーツセンターを通じて、クラブアドバイザーの派遣を継続して実施することにより総合型地域スポーツクラブの組織運営の強化を支援する。また、総合型地域スポーツクラブに期待される、公益的な役割に関して、情報提供を行っていく。</p> <p>イ 広報紙やホームページなどさまざまな媒体を活用し、総合型地域スポーツクラブの活動内容を発信するほか、関係団体とのつながりを強化する。</p> <p>ウ 成人の週1回以上のスポーツ実施率がより一層向上するよう、健康や観光等他部局との連携強化に努めるとともに新しい生活様式の中でのスポーツ習慣化の取組を推進する。</p> <p>(2) しがスポーツの魅力の総合発信</p> <p>①令和4年度における対応</p> <p>ア 引き続きスポーツ大使の就任を進めるとともに、交流事業の様子をSNSで発信することで、県民の運動・スポーツに対する関心が高まるよう努める。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>イ 「しがスポーツの子」事業では、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と連携を図りながら地域のクラブからスタッフ等を派遣し、運動遊びの機会創出を促進する。</p> <p>ウ 「しがスポーツナビ！」の魅力を高めるため、滋賀県ゆかりのアスリートの紹介やスポーツの魅力発信に関するコンテンツを制作するとともに、SNSでの情報発信も強化し、各スポーツ事業の機運醸成を図る。</p> <p>また、東京2020パラリンピックを契機に関心が高まった障害者スポーツについての情報発信を行い、スポーツを通じた共生社会の実現に向けた取り組みを促進する。</p> <p>②次年度以降の対応 引き続き滋賀県ゆかりのアスリートやチームの活躍、スポーツイベント等の情報発信を「しがスポーツナビ！」を活用し実施するとともに、障害者スポーツについての情報発信も継続していく。</p> <p>(3) プロスポーツを活用した県民のスポーツ推進</p> <p>①令和4年度における対応 プロスポーツチーム等の県内で開催される試合の会場やSNS等においてスポーツ関連事業のPRをするとともに、プロスポーツ等が有する広報媒体も活用しながら、県内で開催されるスポーツ大会等の機運醸成および運動・スポーツ習慣化の啓発等に取り組む。</p> <p>②次年度以降の対応 引き続きプロスポーツチーム等の発信力や集客力を活用し県民のスポーツ推進につながる取組を進める。</p> <p>(4) 障害者スポーツの振興</p> <p>①令和4年度における対応</p> <p>ア 滋賀県障害者スポーツ大会において、障害のある方が気軽に大会に参加できる「フェスタの部」、ならびに身近な地域でスポーツを楽しむことができる「スペシャルスポーツの広場」に一層、新たな参加者（特に若年層）を増やせるよう、関係機関に周知していく。また、特別支援学校の教職員の引率旅費を確保する等の取組により特別支援学校等の生徒が県大会等へ参加しやすい環境づくりを進める。</p> <p>イ 総合型地域スポーツクラブでの障害者スポーツの取組を広めるため、既に取り組を実施しているクラブの情報やノウハウ等の共有を進める。また障害福祉とスポーツをつなぐコーディネーターの活用を通じて、障害者スポーツの裾野拡大を図る。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>ア 障害者スポーツの理解をより多くの県民に広げるとともに、大会等への参加者が増えるよう、様々な機会を通じて大会の内容や魅力を発信する等、幅広い広報活動に努める。</p> <p>イ 障害者スポーツの体験イベントなどを通して、障害の有る無しに関わらず多くの県民に障害者スポーツを知っていただくことによって、地域での障害者スポーツの機運醸成や共生社会の実現を推進する。</p> <p style="text-align: right;">(スポーツ課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>12 スポーツ大会の開催・支援</p> <p>予 算 額 153,772,000 円</p> <p>決 算 額 148,214,922 円</p>	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 東京オリンピック・パラリンピックスポーツ交流の創出 101,250,238円</p> <p>ア 「ホストタウン滋賀交流推進実行委員会」を組織し、5市とともに事前合宿の受入れや交流事業を実施          &lt;ホストタウン、その相手国および競技&gt;          滋賀県・大津市ーデンマーク [ボート]、滋賀県・米原市ーニュージーランド [ホッケー]、          滋賀県・守山市ートルコ [ゴールボール、視覚障害者柔道]、          滋賀県・甲賀市ーシンガポール [パラスポーツ]、滋賀県・彦根市ースペイン [ハンドボール]          &lt;事前合宿&gt;          滋賀県・守山市ートルコのみ受入れを実施。その他は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により取止め。          合宿期間：令和3年8月10日～8月20日          参加人数：29人          交流内容：知事による応援ビデオメッセージの贈呈、市内中学生と選手団とのオンライン交流会の開催</p> <p>イ 「東京五輪の熱気を琵琶湖に！実行委員会」に参画し、事前合宿の受入れを実施          &lt;ホストタウン、その相手国および競技&gt;          滋賀県・大津市ーニュージーランド [ボート]          &lt;事前合宿&gt;          合宿期間：令和3年7月11日～7月18日          参加人数：53人          交流内容：練習見学会の実施（約400人が観覧）、近隣中学・高校ボート部による応援メッセージ動画の贈呈、近隣中学校ボート部寄せ書き入り横断幕の贈呈</p> <p>ウ 東京オリンピック滋賀県聖火リレー等の実施          東京オリンピックに向けた機運醸成を図るため、市町等と連携を図りながら、県内全市町において公道での聖火リレーを実施したほか、東京パラリンピックに係る聖火フェスティバルを実施          &lt;聖火リレー&gt;          開催日：令和3年5月27日（木）～5月28日（金）          聖火ランナー：178人</p> <p>(2) ワールドマスターズゲームズ2021 関西の開催準備 10,822,000円          開催府県政令市の一員としてワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会に参画するとともに、ワールドマスターズゲームズ2021関西・滋賀実行委員会として、県内で競技会を開催する陸上（10kmロード）、軟式野球、ドラゴンボート、ホッケー、ボート、ソフトボールについて、開催市実行委員会および競技団体、関係団体等と連携</p>



事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>の上、令和4年5月の開催に向け準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の状況が見通せないことから、同関西組織委員会において令和3年10月に大会再延期の方針が決定された。</p> <p>(3) 新マラソン大会の開催準備 <span style="float: right;">10,000,000円</span>  約60年にわたり本県で開催され令和3年2月に幕を閉じた「びわ湖毎日マラソン」と、県等主催のハーフマラソン大会「びわ湖レイクサイドマラソン」の伝統を引き継ぐ新たな市民マラソン大会「びわ湖マラソン」の開催に向け、開催市および競技団体、関係団体等と連携のうえ準備を進めた。</p> <p>(4) スポーツ大会の開催 <span style="float: right;">9,230,353円</span>  ア 滋賀県民総スポーツの祭典 開催期間 4月～3月（競技ごとに随時開催） 参加者数 21,535人  イ びわ湖レイクサイドマラソン 開催期間 2月13日～2月26日 参加者数 1,440人  ※新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインマラソンとして開催  ウ BIWAKOクロカン 開催日 2月6日 参加者数 1,266人  エ 朝日レガッタ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止  （5月1日～5月4日 エントリー数 842人）</p> <p>(5) 【感】 県内スポーツ活動再開支援事業 <span style="float: right;">16,912,331円</span>  県内プロスポーツチームや県内スポーツ団体等が、試合や教室開催等で取り組む新型コロナウイルス感染防止対策に対し支援を行った。  スポーツ少年団等 245件  プロスポーツチーム等 3チーム（滋賀レイクスターズ、東レアローズ、滋賀G0ブラックス）</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 東京オリンピック・パラリンピックスポーツ交流の創出  ア ホストタウン事前合宿では着実な感染防止対策の下、無事に日程を終えることができ、練習見学会やオンラインを活用した交流会の開催等により交流を創出することができた。  イ 聖火リレーでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により沿道での観覧自粛の要請や式典の無観客開催等、事業の縮小を余儀なくされたが、大きな混乱もなく全てのランナーが公道を走行することができ、東京オリンピックに向けた機運の醸成とともに、本県の魅力を発信することができた。</p> <p>(2) ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催準備  令和4年5月の大会開催に向け、広報活動を中心に準備を進めたが、大会再延期の決定を受け、大会参加者のエントリーのキャンセル受付と返金手続きを行った。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明												
	<p>(3) 新マラソン大会の開催準備            令和3年5月、開催市や競技団体等とともに「新マラソン大会準備委員会」を設立し、コースや種目、開催日、大会名称などの大会概要を検討し、大会名称を「びわ湖マラソン」に決定し、開催日を令和5年3月12日とした。            また、沿道地域の方々への説明や実行委員会の立ち上げ準備など、大会開催に向けた準備を着実に進めた。</p> <p>(4) スポーツ大会の開催            ア びわ湖レイクサイドマラソンは新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインマラソンとして開催し、全国47都道府県の幅広い地域から1,440人の参加があり、滋賀県の魅力を全国に発信することができた。            イ びわ湖レイクサイドマラソン、滋賀県民総スポーツの祭典、BIWAKO クロカンなど各種大会を支援し、スポーツ振興の一翼を担うことができた。運営においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、式典の中止や観戦自粛を呼びかけ実施した。            ウ 県民がスポーツボランティア活動へ気軽に参加できる枠組を整備し、その活動を様々に支援することにより、スポーツボランティアの意義や魅力・楽しさを広く普及し、本県におけるスポーツボランティア文化の定着を図るための推進組織として、令和3年7月に「しがスポーツボランティア協議会」を設立し、オンラインを活用した研修などコロナ禍における工夫を加えて事業を実施した結果、令和3年度末時点でスポーツボランティアの登録者数は累計3,823人となった。（新規登録194人）</p> <p>(5) 【感】県内スポーツ活動再開支援事業            プロスポーツチームやスポーツ少年団などのスポーツ団体に活用いただき、新型コロナウイルス感染症対策を講じて、安全・安心なスポーツ活動を支援することができた。</p> <p>令和4年度（2022年度）の目標とする指標</p> <table border="1" data-bbox="712 1043 1966 1110"> <thead> <tr> <th>・スポーツボランティア登録者数</th> <th>令元</th> <th>令2</th> <th>令3</th> <th>目標値</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>3,379人</td> <td>3,629人</td> <td>3,823人</td> <td>2,000人以上</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 東京オリンピック・パラリンピックスポーツ交流の創出            ホストタウンの取組で得られた成果を一過性のものとせず、交流の継続・深化や、ホストタウンゆかりの競技の地域への普及を図り、未来のスポーツ振興に生かしていく必要がある。</p> <p>(2) ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催準備            再延期後の会期が令和9年5月に決定したが、競技の開催につき、競技団体等の意向を調査・集約しながら組織委員会との調整を行う必要がある。            また、この間の機運醸成について、開催市実行委員会等と協力しながら進める必要がある。</p>	・スポーツボランティア登録者数	令元	令2	令3	目標値	達成率		3,379人	3,629人	3,823人	2,000人以上	100%
・スポーツボランティア登録者数	令元	令2	令3	目標値	達成率								
	3,379人	3,629人	3,823人	2,000人以上	100%								

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(3) 新マラソン大会の開催準備 大会運営に必要な協賛金やボランティアが不足しているため、獲得に向けて積極的にアプローチする必要があるほか、大会の満足度向上のため、沿道応援やおもてなしなどの盛り上げについてさらに検討を進める必要がある。また、交通規制等による影響が大きいため、沿道地域の方々への周知に努める必要がある。</p> <p>(4) スポーツ大会の開催 ア 各種スポーツ大会を継続発展させるため、各大会の魅力を発信し、県内外から多く参加をいただく必要がある。 イ スポーツボランティアの登録者数は順調に推移しているが、びわ湖マラソンや令和7年度の国スポ・障スポ大会など大規模なスポーツイベントにおいて登録者がスムーズに活動できるよう、事前に研修やボランティアに参加するなど実践的な経験を積んでいただく必要がある。</p> <p>(5) 【感】県内スポーツ活動再開支援事業 今年度も事業が継続されていることを関係団体に認知いただくため、滋賀県スポーツ協会等を通じて周知に努めていく必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 東京オリンピック・パラリンピックスポーツ交流の創出 ①令和4年度における対応 新たに創設した「ホストタウンスポーツ交流支援事業」により、ホストタウン登録市が実施する相手国との交流の継続・深化等の取組に対し支援を行う。 ②次年度以降の対応 新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、ホストタウン登録市が実施する取組に対し支援を行う。</p> <p>(2) ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催準備 ①令和4年度における対応 再延期後の会期（令和9年5月）における大会開催について、開催市と競技団体の意向を確認し、組織委員会との調整を行う。 ②次年度以降の対応 新型コロナウイルス感染症の感染状況や海外からの渡航制限にかかる状況を見極めながら、国内外における各競技の愛好家に向けたPRを展開し、参加者獲得と大会の機運醸成に努めるとともに、再延期後の状況の変化を踏まえた具体的な準備を着実に進めていく。</p> <p>(3) 新マラソン大会の開催準備 ①令和4年度における対応 びわ湖毎日マラソンやびわ湖レイクサイドマラソンで培ったノウハウを活かして、協賛金の獲得やボランティア</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>13 国民スポーツ大会に向けた競技力向上 対策</p> <p>予 算 額      319,554,000 円</p> <p>決 算 額      295,894,357 円</p>	<p>の募集を行う。</p> <p>また、応援に来られる方々の移動手段の確保や、フィニッシュ会場における滋賀県ならではの飲食・物産ブースの充実によって大会の盛り上げを図るなど、競技団体や関係市、庁内各部署等と連携しながら、開催に向けた準備を着実に進める。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>継続的な開催に理解を得られるよう、沿道地域の方々に丁寧な説明を行うとともに、出場されたランナーの皆様にもまた出場したいと思っただけけるよう、初回大会の課題や反省点を踏まえ、競技団体や関係市、庁内各部署等と連携しながら、より良い大会に向け必要な見直しを行う。</p> <p>(4) スポーツ大会の開催</p> <p>①令和4年度における対応</p> <p>ア 各種スポーツ大会における参加者数の増加を図るため、それぞれの大会の魅力発信や内容の工夫、広報活動の充実を図る。</p> <p>イ 大規模スポーツイベント等でボランティアの中心として活躍できる人材の養成に向けて、より多くの登録者が研修や活動へ自主的に参加いただけるよう、魅力ある事業を継続して展開できる枠組みを整備する。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>ア 各種スポーツ大会における参加者数の増加に向けた取組を引き続き行うとともに、「みる」という視点からも、広報活動の充実に努める。</p> <p>イ 各種大会の開催にあたり「する」スポーツだけではなく、「支える」スポーツの観点から多くの企業や県民の参画を図り、びわ湖マラソンなどのスポーツイベントにおけるボランティア活動で魅力を感じていただき、本県で開催される国スポ・障スポ大会へつなげる。</p> <p>(5) 【感】県内スポーツ活動再開支援事業</p> <p>①令和4年度における対応</p> <p>引き続き、プロスポーツチームやスポーツ団体等へ事業活用の呼びかけを行う。</p> <p>②次年度以降の対応</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ対応していく。</p> <p style="text-align: right;">(スポーツ課)</p> <p>1 事業実績</p> <p>(1) 次世代アスリート発掘育成プロジェクト <span style="float: right;">10,873,773円</span></p> <p>県内の運動能力に優れた子どもたちを発掘し、身体能力・知的能力の開発や様々な競技体験を通じて、トップアスリートを目指すジュニア選手の育成を行った。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>ア 次世代アスリートの発掘（滋賀レイキッズ第8期生）  ・選考会の開催 エントリー数 310人  成績上位者 男子 21人、女子 21人、計 42人を選考</p> <p>イ 滋賀レイキッズ第8期生 認定証交付式、第7期生 修了証授与式</p> <p>ウ 滋賀レイキッズの育成  ・育成プログラムの開催 7期生 16回、8期生 7回  競技体験プログラム追加体験会（希望者） のべ36回</p> <p>エ プロジェクト実行委員会の開催 3回</p> <p>(2) 特殊競技用具の充実 11,660,220円  《ボート競技》 舵手付クォドルプル艇 1艇、ダブルスカル艇 1艇、シングルスカル艇 1艇  《ライフル射撃競技》 光学式電子標的システム 2セット  （《馬術競技》 競技馬 1頭（競技力向上対策事業にて、競技団体へ定額補助））  （《セーリング競技》 420級艇 2艇（競技力向上対策事業にて、競技団体へ定額補助））</p> <p>(3) 競技力向上対策本部が行う競技力向上対策事業 273,360,364円  滋賀県競技力向上基本計画に基づき、本県の競技力向上と安定した競技力を維持するため、公益財団法人滋賀県スポーツ協会をはじめとする幅広い主体の参画を得て組織する「滋賀県競技力向上対策本部」が行う各種強化事業および対策本部の運営に要する経費を負担・補助した。</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 次世代アスリート発掘育成プロジェクト  実施した育成プログラムおよび競技体験をきっかけに第7期生については12名が種目転向または併行を決めた。また、修了生からJOCエリートアカデミー生に1名選出されたことを始め、アンダーカテゴリー日本代表選手の輩出やインターハイでの入賞等、それぞれの競技で活躍する選手が多数見られる。</p> <p>(2) 特殊競技用具の充実  競技力向上に必要な不可欠な特殊競技用具について、計画的に整備を行った。</p> <p>(3) 競技力向上対策本部が行う競技力向上対策事業  新型コロナウイルス感染症の影響により、三重国体が中止となったものの、県スポーツ協会によるスポーツ特別指導員の雇用の開始や高校生トップアスリート支援事業の創設など、滋賀県競技力向上基本計画（令和3年3月改定）で定めた「躍進期」の1年目として、今後の国体における天皇杯順位の上位進出に向けた取組を実施することができた。また、一部を除き実施された近畿ブロック大会において、過去最高の48種目での突破を果たすなど、これまでの強化活動の一定の成果が現れた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>3 今後の課題</p> <p>(1) 次世代アスリート発掘育成プロジェクト 国スポ開催年に少年種別での活躍が期待されるターゲットエイジ世代の修了生を対象にスポーツフォーラムを開催し、競技団体への接続の機会を設けたところであるが、引き続き修了生の競技活動状況の把握に努め、個別に競技接続を進めていく必要がある。また、本事業が本県の競技力向上のレガシーとなるよう、本プロジェクトの質的向上を図り、競技接続数の向上を目指してより合理的で効率的な事業運営を検討する必要がある。</p> <p>(2) 特殊競技用具の充実 各競技の強化学業が効果的に行われるよう、スポーツ振興くじ(toto)助成金等の外部資金も活用しながら計画的に特殊競技用具の整備を行っていく必要がある。</p> <p>(3) 競技力向上対策本部が行う競技力向上対策事業 目標である天皇杯獲得に向け、成年種別については、現有戦力の強化はもとより、確実に入賞が期待できるトップアスリート選手の確保が必要であり、少年種別については、有望選手の県外への流出抑制に向けた取組の強化や各種支援の充実が必要である。 障害者スポーツについては、令和3年度に取りまとめた選手・スタッフ構想の実現に向け、関係団体や学校の協力を得ながら、選手・スタッフの充実に取り組む必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 次世代アスリート発掘育成プロジェクト</p> <p>①令和4年度における対応 レイキッズ受験者のうち、希望者に競技団体の体験会等の案内を行う「トライキッズ」という取組を新たに開始し、競技接続の機会の拡大を図る。本事業がさらに充実するよう、保護者、子ども、競技団体の理解を得ながら事業を展開し、成果と課題をもって取組を検証する。</p> <p>②次年度以降の対応 競技団体と連携を密にし、トップアスリートを目指すジュニア選手の発掘・育成・強化を継続的に行うための取組、その他条件整備について検討を進める。</p> <p>(2) 特殊競技用具の充実</p> <p>①令和4年度における対応 競技力向上に必要な下記の特種競技用具について整備する。 《ボート競技》 舵手付クォドルプル艇 1艇、ダブルスカル艇 1艇、シングルスカル艇 1艇 《ライフル射撃競技》 エアライフル銃 3丁 《カヌー競技》 K-4艇 1艇</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>14 第79回国民スポーツ大会および第24回 全国障害者スポーツ大会の開催準備</p> <p>予 算 額 218,386,853 円</p> <p>決 算 額 212,133,833 円</p>	<p>《トランポリン競技》 トランポリン 2台（競技団体への定額補助）  《セーリング競技》 470級艇 1艇（競技団体への定額補助）  《馬術競技》 競技馬 2頭（競技団体への定額補助）</p> <p>②次年度以降の対応  競技規則の変更や老朽化等により整備が必要な特殊競技用具について、スポーツ振興くじ(toto)助成金等の外部資金も活用しながら計画的に整備を行っていく。</p> <p>(3) 競技力向上対策本部が行う競技力向上対策事業</p> <p>①令和4年度における対応  躍進期の2年目となる令和4年度においては、「天皇杯順位10位台への進出」を達成するため、競技毎に定める重点強化種別・種目に対するポイントを絞った支援を行う。  併せて、成年種別については、「スポーツ特別指導員」のさらなる確保を計画的に進めるとともに、「SHIGAアスリートナビ」による県内民間企業への就職支援など、民間企業や大学、公務員等でのトップアスリート選手の確保を推進していく。少年種別については、ターゲットエイジ強化選手に対する県内高校への進学を促すためのアプローチや、国スポで上位入賞が期待できる選手への支援である「高校生トップアスリート支援事業」の拡充により優秀な選手を一人でも多く滋賀に留められるように努める。  また、障害者スポーツについては、必要なスタッフの確保に向け、具体的な役割や協力内容を整理し、各関係団体へ働きかけを行うとともに、選手の確保および競技力向上に向け、特別支援学校体育連盟や各競技団体が行う強化事業に対する支援を行う。</p> <p>②次年度以降の対応  「第79回国民スポーツ大会における男女総合優勝（天皇杯獲得）」「第24回全国障害者スポーツ大会に向けた障害者スポーツの普及・競技水準の向上」に向け、基本計画に定める各期の段階的目標を達成できるよう、開催年を見据えて各種事業を戦略的に進めていく。</p> <p style="text-align: right;">(国スポ・障スポ大会局)</p> <p>1 事業実績  県や市町をはじめとする県内の主要な機関・団体で構成される「第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会滋賀県開催準備委員会」に対して、運営等に必要な負担金を拠出するとともに、市町が行う施設整備に対し必要な支援を行った。</p> <p>ア 総会（第9回）  会則や関連規程等の改正のほか、事業報告、収支決算報告、事業計画、収支予算等について審議し、決定した。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>イ 常任委員会（第10回、第11回） ※第11回常任委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ書面開催            専門委員会設置規程の改正のほか、専門委員会に付託した事項について審議し、決定した。</p> <p>ウ 専門委員会</p> <p>（ア）総務企画専門委員会            国スポ・障スポ会期（案）、国スポ・障スポ大会滋賀県開催準備委員会専門委員会設置規程改正（案）、国            スポ・障スポ大会開催準備総合計画改正（案）、国スポ正式競技第八次、第九次内定（案）、国スポ正式競技            開催予定施設変更（案）、国スポ競技施設基準改正、国スポデモンストレーションスポーツ実施競技選択および            会場地市町第三次内定（案）、国スポデモンストレーションスポーツ開催予定施設変更（案）、国スポデモンスト            レーションスポーツ実施競技名変更（案）、国スポ競技施設整備計画（第4次）（案）の決定</p> <p>（イ）広報・県民運動専門委員会            令和4年度取組計画の決定</p> <p>（ウ）競技運営専門委員会            競技別リハーサル大会運営要領の決定</p> <p>（エ）全国障害者スポーツ大会専門委員会            選手団サポートボランティア養成基本方針（案）の決定</p> <p>（オ）式典・会場専門委員会            式典基本構想（案）、専門委員会部会設置要綱（案）、専門委員会設置規程改正（案）の決定</p> <p>（カ）警備・消防専門委員会            警備・消防防災基本計画（案）の決定</p> <p>（キ）宿泊・衛生専門委員会            国スポ宿泊施設充足対策要項、国スポ医療救護要項、障スポ医療救護要項の決定、宿泊部会および医事・衛            生部会の開催</p> <p>（ク）輸送・交通専門委員会            輸送・交通業務の取組について、輸送・交通総合調査の概要についての報告</p> <p>エ 特別委員会</p> <p>（ア）募金・協賛推進特別委員会            企業協賛推進要綱（案）、募金推進要綱改正（案）等の決定</p> <p>（イ）子ども・若者参画特別委員会（通称：ジュニア・ユースチーム）            「滋賀県らしいPRの方法」をテーマにこれまでの委員経験者にアンケート調査を行い、児童生徒の意見を            踏まえた広報物を作製</p>



事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>オ 市町競技施設整備費補助金 市町が行う国スポ・障スポの競技会場となる競技施設の整備事業に対する支援制度に基づき、9件 158,915千円を交付した。</p> <p>2 施策成果 競技会場地の内定をはじめ、開催準備委員会の各専門委員会・特別委員会における所期の活動を行うことができた。</p> <p>3 今後の課題 両大会開催に必要な準備を着実に進めるとともに、中央競技団体正規視察で指摘を受けた課題等への対応策の検討をはじめ、競技用具の整備、練習会場の選定、競技役員の編成など、会場地市町および競技団体と連携して開催準備を進めていく必要がある。また、大会マスコットキャラクターや、愛称・スローガン・イメージソングを活用した様々な広報啓発活動を展開し、県民総参加でつくる大会に向けたさらなる機運醸成を図る必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応 ①令和4年度における対応 ア 日本スポーツ協会および文部科学省による総合視察を受け、日本スポーツ協会の国民体育大会委員会を経て、7月14日に開催される日本スポーツ協会理事会にて開催決定書を受領し、開催準備委員会から実行委員会に改組する。競技会の開催準備については、中央競技団体の正規視察での指摘事項を踏まえ、競技ごとに競技会場施設等の整備状況や競技運営準備状況について会場地市町および競技団体と課題や情報の共有を図り、対応策の検討を進める。 イ 本年度は滋賀県での開催が決定する節目の年であるため、これを契機として、開催決定イベントの開催、大会専用ホームページのリニューアルなどの取組を実施することにより、さらなる機運醸成を図る。</p> <p>②次年度以降の対応 ア 中央競技団体正規視察時の指摘事項を踏まえ市町が行う競技施設の整備事業に対する支援を行うとともに、正規視察で明らかになった課題等への対応を含む開催準備について競技ごとに会場地市町および競技団体と調整を行い、連携・協力しながら開催準備を進めていく。 イ 大会マスコットキャラクターや、愛称・スローガン、イメージソングを活用し、広報物品、メディア、屋外広告など、様々な手段で広報啓発活動を展開するとともに、開催までの節目でイベントを実施し、効果的に広報するほか、イメージソングの普及や花いっぱい運動の準備を進め、機運醸成を図っていく。</p> <p style="text-align: right;">(国スポ・障スポ大会局)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>15 スポーツ施設の整備</p> <p>予 算 額 368,790,000 円</p> <p>決 算 額 350,313,723 円</p> <p>(翌年度繰越額 4,913,000 円)</p>	<p>1 事業実績</p> <p>(1) 彦根総合スポーツ公園整備事業 9,140,371円  滋賀県立彦根総合運動場（彦根市松原町地先）を第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会の主会場として、第1種陸上競技場を備えた都市公園として再整備するため、事業用地の取得に努めるとともに、これに伴う事務を行った。</p> <p>ア 市民体育センター動産移転・保管業務委託  事業用地に所在した彦根市民体育センターの廃止、移転にあたり、当センターの管理する動産の代替施設への移転および代替施設供用までの間の一時保管業務を彦根市に委託した。</p> <p>イ 主会場所管地管理業務委託  事業用地の適切な維持管理を行うため、除草業務を委託した。</p> <p>(2) 滋賀アリーナ整備 190,278,824円  滋賀アリーナ整備について、下水道管設置工事を実施し、P F I方式による事業については躯体工事を完了し、外装、内装工事に着手した。</p> <p>(3) 琵琶湖漕艇場再整備 20,278,528円  建物の改築工事施工時に使用した仮設工作物の撤去および公園復旧工事を行った。</p> <p>(4) プール整備 130,616,000円  「（仮称）草津市立プール整備・運営事業に関する基本協定書」に基づき、草津市が実施した土木関連業務、設計建設モニタリング業務に要する経費に対して財政支援を行った。</p> <p>2 施策成果</p> <p>(1) 彦根総合スポーツ公園整備事業  事業用地の維持管理を適切に行うとともに、公園整備に伴い解体した彦根市民体育センターの動産について、適切な管理を行うことができた。</p> <p>(2) 滋賀アリーナ整備  滋賀アリーナの整備について、令和4年12月の供用開始に向け、下水道管設置工事やP F I方式による躯体工事等着実に進捗が図れた。</p> <p>(3) 琵琶湖漕艇場再整備  再整備の取組を着実に進捗させ、利用者の利便性・安全性の向上や、競技会場としての機能強化を図ることができた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(4) プール整備 草津市において、県道付替工事や、設計建設モニタリング業務などを着実に進めるとともに、P F I 事業では実施設計業務を完了した。</p> <p>3 今後の課題</p> <p>(1) 彦根総合スポーツ公園整備事業 工事担当部局、彦根市、地元等関係者と連絡調整を行いながら着実な整備や未買収地の取得を進めるとともに、供用後には適切な管理運営を行う必要がある。</p> <p>(2) 滋賀アリーナ整備 P F I 事業者と連携・協力しながら、令和4年12月の供用開始に向けて準備を進めるとともに、供用後には適切に管理運営を行う必要がある。</p> <p>(3) 琵琶湖漕艇場再整備 令和3年度で事業が完了したが、適切な管理運営を行っていく必要がある。</p> <p>(4) プール整備 令和6年6月に供用開始ができるよう、草津市との連携のもと事業を進める必要がある。</p> <p>4 今後の課題への対応</p> <p>(1) 彦根総合スポーツ公園整備事業</p> <p>①令和4年度における対応 工事担当部局や彦根市と協力しながら、着実に整備を進めるとともに、供用開始に向けた準備を行う。</p> <p>②次年度以降の対応 令和7年の国スポ・障スポ大会の開催に向けて、主会場整備の全体スケジュールに遅れが生じないよう、彦根市と連携を強化し、関係者の理解を得ながら引き続き事業を進めるとともに、指定管理者と連携・協力しながら適切な管理運営を行っていく。</p> <p>(2) 滋賀アリーナ整備</p> <p>①令和4年度における対応 P F I 方式による工事等について、各工程の調整を行いながら、着実に整備を実施していくとともに、令和4年12月の供用開始に向けた準備を進める。</p> <p>②次年度以降の対応 P F I 事業者と連携・協力しながら、適切な管理運営を行っていく。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(3) 琵琶湖漕艇場再整備 指定管理者と連携・協力しながら、適切な管理運営を行っていく。</p> <p>(4) プール整備</p> <p>①令和4年度における対応 P F I 方式による事業等、草津市との連携のもと事業を実施していく。</p> <p>②次年度以降の対応 草津市における事業進捗に合わせて、引き続き、着実に財政支援を実行していく。</p> <p style="text-align: right;">(スポーツ課)</p>